

標茶町議会第3回定例会

一般質問通告一覧

平成28年9月1日

No. 1

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を 求める 者	答弁内容
11番	本多耕平	育英資金貸付に係る地元就職者への減免規定の拡大を図るべき	<p>現在、中学生までの義務教育を越えて高校授業料無償化が一定以上の高所得者や私立高校を除き行われており高等学校の義務教育化が進んでいるのではないかと考えるところであります。子供たちが高校、大学、専門学校に進み社会で活躍するにあたり希望する職業を選択する上で自己研鑽と努力によりその実現が可能とするものであります。現在では、高校を卒業した後、都市部に集中する大学や専門学校等に進む場合が多く、地方に住む者にとって専門的な分野に進学する場合、それ相応の学資金が必要となっているのが現状であります。その様な中で奨学金制度は親御さんにとって大変重要となっているものであります。</p> <p>・初めに、本町において経済的理由によって進学、在学困難な者に対し一定の学資金を貸し付けする制度「育英資金貸付制度」を設けているが過去3年間の貸付状況はどの様になっているか伺いたい。また、その場合貸付規定では返済は貸付期間終了後10年以内で返済することとなっているが現在、10年を超えて返済している者がいるか。いるとしたら貸付返済者総数のうち何人か伺いたい。</p> <p>・2点目は、条例で減免規定を設けているがこれまでのその実績について伺いたい、その場合の事由についてもあわせて伺う。また、4項にある教育委員会が特に必要と認める理由がある時とはどのような時か伺う。</p> <p>・3点目は、地域経済発展において人材は欠かせることのできないものであります。本町の基幹産業酪農の発展に重要な専門職の獣医師や住民の健康を守る上で医療、福祉機関の運営に必要な人材確保の困難な医師、看護師等資格専門職の方が本町に一定期間就業した場合に育英資金貸付金の返済を減免する規定を追加してはどうか伺う。</p> <p>また、近年、奨学金を借りて就職後の返済が困難になるケースが多々あると聞く、そこで他の奨学金、例えば日本学生支援機構、他自治体の奨学金制度の返済に町内に一定期間就業した場合に奨学金返済を支援する制度、例えば「返</p>	町長 教育長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を 求める 者	答弁内容
			<p>済の一部を肩代わりする」制度の創設、更に永住を進めるため住宅を建てる場合、「町有宅地を解放する制度」等、考えられる支援制度を創設し有資格者の確保に努めるべきと考えるがその考えはないか伺う。</p>		
8番	渡邊定之	<p>1. 農家私道の必要な除雪をし、基幹産業の支援を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 酪農家の中には、除雪対象路線から自宅、牛舎施設までの私道の距離が非常に長く、冬期間の除雪に苦勞し、農作業に大きく影響しているところもあるが、町としてその実態を把握しているか。また、それらの農家からの要望は来ているか。 ・ 近年、気候の大きな変動による降雪量、吹雪等を考えると、自前の機動力では限界があり、ミルクローリーの集荷時間によってはかなり早朝からの対応が必要となり、農家経営を圧迫していると考えが町長の所見を伺う。 ・ このような実態を把握し、酪農家の生の声を聞きながら的確な対応をし、基幹産業の支援をすべきと考えるがどうか。 	町長	
		<p>2. 民間介護施設の除雪を考えるべきではないか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間の介護事業所は、入所希望者の急増に伴い施設の拡張に努力し町の福祉対策に大きく貢献していると思うが、この様な介護事業所や高齢者を対象とした民間事業についてどのような評価をしているか、将来的な見通しも含めて町長の所見を伺う。 ・ 町内には、市街地から離れた地域で介護事業を行っているところがあるが、施設から公道までの距離が長く、また私道であることから除雪車が入ってこない。手作業で除雪できる状態ではなく、要介護者や高齢者を抱えて困難な状況にあるが、介護事業所のこのような実態を把握しているか。本町としても何らかの支援をしていると思うがその状況について伺う。 ・ その他の民間介護事業者でも、その福祉事業の特殊性、重要性を考えれば、冬期間の事業所の除雪は住民サービスの向上に直接つながるものとする。除雪の支援要請があれば、町として前向きに検討し、対応すべきと考えるがどうか。 	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を 求める 者	答弁内容
4番	深見 迪	1. 釧網線現状維持の見通しと本町方針を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR北海道は本年7月29日「JRによる『持続可能な交通体系のあり方』に関する地域への相談について」との会見を行ったが、この内容について町長はどのような受け止め方をしているか所見を伺う。また、非公式であってもJRから何らかの連絡、相談があったのか伺う。 ・ JRが言う路線維持のための地域の「応分の負担」、「上下分離方式」はいずれも釧網線現状維持のために、標茶町にかなりの負担が生じる内容である。その金額がどの程度か予測しているか。また、本来国が責任を負うべき公共交通路線の維持について、機械的に市町村が負担を分かち合うというのは、国鉄分割民営化のときにはなかった話である。本町を含めて沿線自治体が負担をするというのは、受け入れるべきでないと思うがどうか。 ・ 釧網線現状維持は沿線自治体の共通の課題であると思うが、自治体間の協議等は今まであったのか。あったとしたらその内容を伺う。 ・ 輸送密度の低下は、国に大きな責任があると思う。本町としても、住民や沿線自治体と力を合わせ、国、道に公共交通機関現状維持を求めていくべきと思うがどうか。また、釧網線廃止を食い止める大きな運動が必要と思うが、今後どのように対応していくか町長の所見を伺う。 	町長	
		2. 要介護1、2についても特別養護老人ホームの入所対象とすべき	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年4月から国は、特別養護老人ホーム（以下特養）入所の要件として、原則として要介護3以上とし、事実上要介護1及び2の入所切り捨てを行った。本町も待機者がこれによって少なくなったと説明を受けたが、本町の特養の入所の順番として要介護度、本人の症状、介護者の健康状態などの状況、生活・経済の状況などがあげられると思うが、このほかにも順番を決める内容はあるか。 ・ 今日、特養の待機者が少なくなったのは、国が要介護1・2の切り捨てを行ったからであり、介護を必要としている人たちの状況は変わっていない。本町では、この様に門前で対象から除外するのではなく、「認知症や知的障害、精神障害がある・家族が高齢であったり、病弱その他の理由で支援が難しい・介護と仕事に追われる」などの理由も含め、家族などの虐待が疑われるなど特例的に入所を認める利用者をも対象にすべきではないか。 ・ 要介護2以下でも入所希望者を門前で対象から除外するのではないことを、住民に周知するべきと思うがどうか。 	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を 求める 者	答弁内容
		3. 後期高齢者特例減免廃止の中止を国に求めるべきと思うがどうか	<ul style="list-style-type: none"> 2018年度の改定時から、要介護1及び2の「生活援助」「福祉用具のレンタル」の保険給付の対象を縮小する計画も聞いているが、これをさせないためにも、従来の介護制度の維持に努めるべきと考えるがどうか。 後期高齢者医療制度における保険料の軽減としては、政令本則で、均等割の2割、5割、7割軽減となっているが、国の特例措置として、低所得者に対する所得割の実施や、均等割の軽減を8.5割、9割に拡大してきた。加えて、後期高齢者になるまで被用者保険などの被扶養者だった人も9割軽減としてきた。これを国は、2017年度から原則的に政令本則の2割、5割、7割に戻す予定である。これによって、本町においても影響がある被保険者は1,134名で全体の約83%、影響額は一般の被保険者全体で800万円増、一人平均6,500円増になると試算された。 本年3月議会で私の質問に対し、「急激な負担増を避けるよう十分配慮すべきだ」という答弁だった。そのうえで、引き続き特例措置については国に対して要望していくという広域連合の動きがあると答えたが、その後どのような広域連合の判断と行動があったのか伺う。また、本町としても国に対し独自に要請すべきと考えるがどうか。 	町長	
6番	松下哲也	スポーツ振興助成金の増額への検討を	<p>リオオリンピックが終了しました。今回のオリンピックではメダル総数41個という素晴らしい成績を上げられた。多くの国民に夢と希望、感動を与えてくれた大会であった。2年後には冬季オリンピック、また、4年後には東京で開催のオリンピックであり、多くの選手の活躍が期待される場所である。</p> <p>本町の児童、生徒の体育系、文化系の大会への参加が積極的に行われ、管内大会を勝ち上がり全道大会又は全国大会への出場が果たされ、その報告に町長、教育長への表敬訪問が町広報紙、新聞等で紹介され多くの町民の方々も承知しているところである。全道大会、全国大会等、上部大会への出場にあたっては遠征費の負担も高額になり、親の負担も多額になっているという話も聞いている。子供達の夢を壊すことなく安心して大会に出場できる体制を充実させていくべきと考え、以下の点について伺う。</p>	教育長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を 求める 者	答弁内容
			<p>①部活での大会、スポーツ少年団、文化系大会も等しく助成されているか。</p> <p>②全ての大会に助成されているか。</p> <p>③助成額の増額に向け検討されてはどうか。</p>		
9番	鈴木裕美	災害時の避難救出体制について	<p>台風11号による大雨で釧路川の増水、オモチャリ川の溢水によって8月21日釧路川左岸地域（一部を除く）に避難勧告が出され避難場所が開設されて多くの住民が避難をしました。</p> <p>避難救出活動では、地域住民（町内会）の協力体制が重要ですが、現在その仕組みがありません。</p> <p>標茶町防災計画第5章災害応急対策計画第3節避難救出計画では避難に際しては要支援者を優先することになっていますが、町内会には要支援者の名簿提供がされていないこと、また、特定の方の見守り体制が取られていてもそのことも町内会には周知されていない等で連絡が取れず安否確認が遅れるといった行政と町内会の連携が不十分なことがわかりました。避難移送方法についても同じことが言えました。</p> <p>早急に避難救出体制を取る必要があると考えますが如何か。</p>	町長	
1番	櫻井一隆	と畜場食肉加工センター建設の今後について	<p>釧路酪農畜産業が必要としている食肉加工センターの建設見通しについて、以下4点について伺いたい。</p> <p>(1) 6月定例会以後、厚岸漁業協同組合から届いた意見書に対し、根釧と畜場食肉加工施設整備検討委員会として回答を示したと思うが、どのように回答されたのか、また、それ以後も話し合いもなされたと聞くがその経過の説明を求めます。</p> <p>(2) 回答に対して、厚岸漁業協同組合は理解を示していただけなかったと聞くが、その理由は何か、また、厚岸のカキ漁業者の既得権や生活権がある様に酪農畜産農家にも経営と生活を守る権利があると思うのですが、町長</p>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を 求める 者	答弁内容
			<p>は、どのように農業者の思いを相手に伝えてくれたのか伺いたい。</p> <p>(3) 本町が目標とし取り組んできた平成29年度の建設予定は今後どうなるのか伺いたい。</p> <p>(4) 下流域住民に反対されれば、上流域に住む者は工場も建設することはできないのか、不安に思うのですが、釧路総合振興局や許認可権を持つ北海道庁とどのような相談をしてきたのか、また、北海道庁よりの助言や的確な指導はなかったのか伺いたい。</p>		